

学友会東京支部だより

南高

発行 和歌山県立南部高等学校
学友会東京支部
事務局 〒363-0022
埼玉県桶川市若宮 1-8-12-204
TEL・FAX 048-786-3514

春の散策の思い出 王子駅～旧古河庭園まで

昭和48年卒 岩城 あつ子（埼玉県所沢市在住）



5月14日（土）10時、王子駅集合で、王子神社⇒飛鳥山公園⇒西ヶ原一里塚⇒滝野川公園⇒旧古河庭園を巡るコースの『春の散策』に誘われて友達と参加しました。天候は良好で初めての地域にわくわくでした。

遅刻者はいなく予定通りの出発。まず、自己紹介がありましたが覚えきれませんでした。それから王子神社でお参りをして記念写真を撮りました。撮影中に雨みたいに降ってきた木の実には驚きました。次に飛鳥山公園に行き、徳川吉宗が植えたといわれる桜は新緑がとっても爽やかで花の季節のすばらしさを想像させられました。公園内には紙の博物館と北区飛鳥山博物館と渋沢栄一資料館があり、どれも魅力的でしたが、時間の都合で飛鳥山博物館と埼玉県民として欠かしてはならない渋沢栄一資料館を観ました。渋沢資料館では清水建設のコラボ展示があり、彼が幅広く事業に活躍していたことが分かりました。飛鳥山博物館には人間国宝 奥山峰石の素晴らしい銅版細工が展示してありました。もう少し見ていたかったのですが皆さんが次の目的地に向かったので急いで後を追いました。



滝野川公園は水が小川みたいに流れている遊び場があり子供たちが楽しんでいました。近くでイベントがあり無料で飲物を配っていたので遠慮なく頂き、水辺に座りお弁当とお裾分けを美味しく楽しく食べました。

旧古河庭園は、ちょうど薔薇がいちばん綺麗な季節で観光客が多く、私たちだけなら最高に幸せなのだと思いますが現実はまだならず、人混みにもまれながら頑張って見ました。お気に入りのバラはふっくらとした端正な濃い赤の「イングリッドバークマン」でしたが、周りでの話題は「初恋」という可憐な白ピンクの花でした。時間に余裕があったので日本庭園もしっかり見ることができ、最後にお茶会もありとっても楽しい一日でした。

第8回 南高学友会東京支部総会・懇親会決まる

日時：平成29年6月18日（日）11：30～14：30
場所：水道橋グランドホテル

懐かしい人たちと楽しい時間を過ごしませんか。

熊野古道 伊勢路 旅

昭和42年卒 山嵜 春樹（神奈川県平塚市在住）

一昨年の秋に熊野古道新宮速玉大社から那智大社を経由して本宮大社まで歩いたのに引き続き、友人の川口君と12月28日から元日にかけて、伊勢神宮から速玉大社までの170 kmの行程の熊野古道伊勢路旅を試みた。1日あたり35 kmなのと峠越えが15あるので、全体の7割を歩いて残りはJR紀勢線を利用する計画を立てた。

初日・12月28日早朝5時に自宅を出発。小田原からひかり号で名古屋に、近鉄名古屋で千葉からの友と合流。7:50特急で9:20近鉄五十鈴川駅に着く。

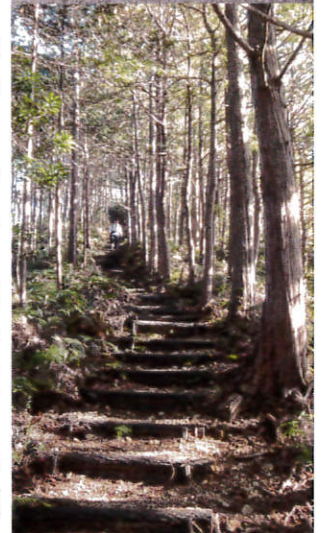
おかげ横丁を素通りし、伊勢神宮内宮の正宮にお参りして、心と体を清め、旅の安全を祈願。バスでJR伊勢市駅に。駅前の古びた食堂で醤油をからめた伊勢うどんを頂く。列車で伊勢路の起点田丸駅へ行き、12:25今回の歩程スタート。永昌寺を経て、最初の峠、女鬼峠に向かう。標高差120 m切り通しと呼ばれる難工事の跡、荷車の轍跡も見られた。深谷地蔵を通り過ぎて、茶畑が広がるも、時代の流れだろうか、茶畑跡地に太陽光パネルが並ぶ、考えさせられる光景だ。国道42号線、JR紀勢線を横切ると今日の宿泊場所柘原の旅館岡島屋に16:28着。歩程20 km、歩数計31,925歩。初日から大移動。

2日目・朝食前に旅館近くのお稲荷さんを祭っている50～60 mの山に登る。朝食後旅館発8:15、バカ曲がりという古道跡を通り抜ける。古道案内人の集う喫茶店ラ・メールは年末で休みだった。道中名所巡りをしている時間はないので先を急ぐ。三瀬坂峠を過ぎ瀧原宮に寄る。道の両側に樹齢数百年の杉の大木が並ぶ。ひと駅列車に乗り伊勢柏崎駅の「紀勢荘」に16:30到着。歩程26 km、歩数40,641歩。

3日目・宿の女将さんに火打石でカチカチと厄除けしてもらい7:21出発。楠のある国昌寺、大内山川沿い一里塚から檜林、大内山駅前を通過して9:30梅が谷分岐に。ここでわれわれは荷坂峠へ向かう。

10:22峠で山ガール4人と出くわす。今回の旅で初めての出会いで、三重、名古屋の娘さんたちだった。ガイド役（語り部）の女性はよく勉強しているようで「南部の事、南高梅の由来」も知っていた。話が弾んだが、急がねば。紀勢国境の峠を下りる江戸道と明治道があり、急坂で狭い江戸道を行く。江戸道が世界遺産登録とのこと。いよいよ紀州に・・・古い街並みに廃屋が目立つ。ぽつんと眺めていたら、前から歩いて来た90歳過ぎ？のお婆やんが「こかいたら損やさかいのう」と話しかけてきた。いまにも倒れそうな家だが、潰すにも費用がかかるし、更地にすると税金も上がると言いたいようだ。

道の駅まんぼうで昼食、魚まちを歩くが、街並みの後ろ側は崖だ。一石峠・平方峠・熊谷道を越えると乗車予定の三野瀬駅だが、乗らずに始神峠を目指す。峠を越え、峠下16:25、まだ次の駅まで3 kmほどある。「走ろう」と友の声、重いリュックを揺らしながら、船津駅へ走れ走れで、ようやく17:05到着。次の相賀駅まで列車で4分で、駅前「りぼん旅館」17:25着。入浴後夕食。



食事のメニューはいがみの煮つけ、生ガキの酢漬け、かきなべ、えび、はまち、まぐろ、鯛の造り、市田柿と素晴らしい。朝食もあって7,000円とは超お得！歩程33km、52,685歩。ぎょうさん歩いた、いっぱい食べて寝よっと！

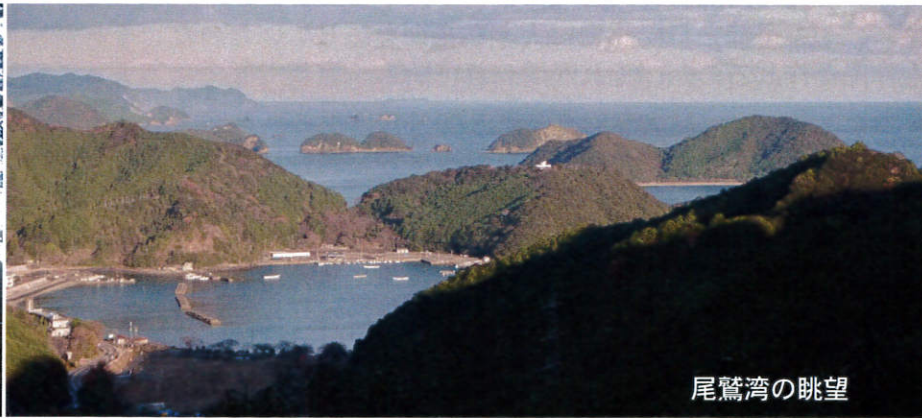
4日目・今日は「日本一の石畳ルート」とも言われている馬越峠です。「なるほど」「やにこいやら」と言いヤイしもうて登る。峠にリュックをデポして、30分程で天狗倉山山頂に立つ。大岩の鉄格子を使つての登頂で友は槍ヶ岳並みの鉄格子と言う。尾鷲湾の展望良好。峠に戻りリュックを担ぎ直して便石山を目指す。いったん下がっての登りはきつい。山頂は植樹林で展望は無いが、お目当ての大岩「象の背」では太平洋ほしいままの大展望に思わずヤッホー。

尾鷲への下山道は初め不明瞭だった。コンビニで遅い昼食を済ませ、八鬼山へ向かう。登山口で14:30、少し遅いが登りを決行。途中会った地元の人から「テントで泊まるの？三木里駅まで3時間はかかるよ！」とのこと。石段を汗だくで上る。七曲の難所も越え、標高647mの頂上に16:25到着。早く下りないと日が暮れる。荷坂峠同様江戸道を選択し、石段を駆け下りる。暗くなって懐中電灯で照らしたころは坂も緩やかになってきた。三木里駅には18:24着、19:03乗車、新鹿駅19:17着、迎えの車で民宿19:25着。42,995歩。今回の旅最大の難所を越え、遅くなったが無事宿に到着し、ほっとする。

5日目・元旦、新鹿駅6:25発に乗り熊野市駅6:36着。徒歩15分で海岸に着くと、日はまだ出ていない。快晴の水平線にもほとんど雲は無い。一生に一度かもしれない絶好の天気だ。7:01水平線から初日の出が現れ、夢中でシャッターを押す。朝食後日本最古の神社といわれる花の窟神社に参拝。七里御浜を海岸線に沿ってひたすら歩く。速玉大社に到着は14:25だった。ここまでで熊野古道伊勢路旅は終了。40,198歩。2人で目的達成にがっちり握手。

明日はオプション旅で、3つの山と2つの滝を巡って帰途につく。5日間の行程は歩数で20万歩を越え、途中横道にそれたオプション山行きもあったが、最大の難所の八鬼山峠を始め荷坂峠など10以上の峠を越える事ができた。ひたすら先を急いだのでじっくりと名所旧跡を巡れなかったが、道中お会いした沿道の温かい親切にも触れることができ、明日への活力を頂く思い出多い旅でもあった。

最後に川口君と2人で声を合わせて、感謝・感激・歓喜の「ヤッホー！」。



尾鷲湾の眺望



青い海に抱かれた
日本一の「南高梅」の里

紀州「みなべ温泉」
旧入道会
紀州路 みなべ

〒645-0004 和歌山県日高郡みなべ町埴田1540
TEL. **0739-72-3939** (代表)
<http://www.kishuji-minabe.jp/>

年4回のイベント人生

昭和33年卒 竹中 司郎(神奈川県川崎市在住)

昨年2016年9月に、わたしは77歳の喜寿を迎えました。そしてこの写真は、その10月にわたしが企画した地域のイベントのポスターです。「木こりの会」イベントNO.27 <もう一度アフリカの太鼓>そして<コーラス>とあります。現役退職後、川崎市麻生区王禅寺東の新興住宅地の公園緑地を整備するボランティア活動を開始し、そのきれいになった公園の広場ではじめてのイベントです。NO.27とありますが、およそ15年間で春と秋、もう27回開催してきました。今回のアフリカの太鼓には、会場に集まった人たちは大喜びでした。大声を出して歌い、太鼓をたたき、そして踊りまくる。それに観客もいっしょになって踊ったりしたのです。アフリカの原始的な踊りや太鼓が、人間の深い所にある潜在意識をゆさぶり、都市化が進むわたしたち日本人には懐かし、強烈な喜びを与えてくれたのです。企画したわたしも過去最高のイベントだったとうれしかった。



出演してくれたアフリカの太鼓は王禅寺地域の女性や相模原、八王子などの女性たちがはじめたものです。アフリカへ行って現地の太鼓を学び、衣装や太鼓も買い求めてきたのです。女性の行動力にはすごいものがあります。去年のイベントにはもう一つあります。

公園緑地を整備するボランティア活動の成果を生かして、また別の森林公園で子どもたちの冒険遊び場「プレイパーク」を実施したときの事です。夏休みに入った7月の23、24日の2日間、小学校低学年の子どもたちと、その家族、2日間で200数十人が集まってくれました。谷間の大木の枝を利用して作った大きなターザンブランコ。大木と大木との間に上下2列のロープを張ってそのロープをサルのように歩く「モンキーロープ」。昼寝もできるハンモック。そしてスベリ台に水を流して滑るスベリ台。水が吹き飛び、子どもたちは大喜び。好きな子どもは何時間も行列をなし、滑っている。ターザンブランコと同じ、子どもは自分が生きている命を実感し、その恐怖と自己認識に大きな喜びを感じていたのだ。それだけではない。木工もあり、自分はどんな作品が作れるのか、それが問われている。家族で懸命に工夫をこらして創作活動に何時間もはまっていた。

わたしはボランティアの仲間たちと2日間ほどかけて準備設営したが、やりがいがあった。後で近所のおばあさんから聞いたことだが『うちの孫娘(小学4年生)がね、プレイパークから帰ってきて「きょうは楽しかった」と寝るまでずーっといつまでも言い続けていたよ』と報告してくれた。上記のアフリカの太鼓のイベントもそうだが、他人に喜んでもらえることがどれほどうれしいことか。そして大事なことか。

しかし、わたしも喜寿になった。2年前には脳梗塞で入院もした。こうしたイベントも他に、中学校区の地域教育会議の「冬の自然を楽しむ会」もあり、年に4回イベントをやっている。しかし、もうそれもできなくなりつつある。気力もアイデアも出てこない。老化でイライラしている。

だれか後を継いでくれる人を探しているが・・・。



伝統の製法を守りながら
漬上げた梅干が「くめ」なのです。



紀州でまりのように丸くてやわらかい梅一粒を
大事に大切に心を込めてつまみました。

まりおとめ
球乙梅®



井上梅干食品株式会社

〒645-0012 和歌山県日高郡みなべ町山内1095-1

TEL. ☎0120-01-2730 FAX. ☎0120-04-2412

本社

0739-72-2730

みなべ店

0739-72-5223

東京銀座店

03-6274-6033

ホームページ: <http://www.kumaheinoume.co.jp/>

自分の為

昭和33年卒 楠本 建彦(横浜市金沢区在住)

以前、会報5号(平成20年)に『Iちゃんと私』と題して、自閉症児との係わりを報告してもらいました。そのIちゃんも、今では特別支援学校の高等部三年生で、春4月からは、福祉作業所で働かなければなりません。年齢とともに、家庭、学校を含む周囲からの期待値も上がり、『自立』に向けての(なかなか難しいのですが)様々な生活ルールや作業能力の習得に務めなければなりません。しかし、この訓練や勉強は本人達にとっては非常にストレスの掛かる事柄なのです。この為もあって、この児らの場合、小学-中学-高校と進み環境が変わる度に、その環境変化に慣れるまでの間に、様々な『パニック症状』に陥ります。特に女子の場合は、女性特有の体の変化もありますし、それに伴う精神的な不安や体調不良も重なり一層顕著なパニック症状を起こし、周囲を悩ませます。そしてこんな状態の時に、自己のコントロールがきかなくなり『自傷』行為に向かい、手、足、首筋などをカキムシリ、血を流している児もよく見かけます。別のパターンでは、他人に対して攻撃的になり手が出たり、足が出たりすることも間々あります。



Iちゃんの場合も、今年の夏以降部屋の片隅でワメイテいたかと思うと突然に女子職員に乗り掛かることも何度かみられる様になりました。しかし、こんな場合でもよくよく見ていますと、標的にされるのは『弱い』と思われる小柄な女子職員か、小学生です。こんなことが重なり、『変だなあ』ということで、家庭との連絡ノートを改めて見直して見ると、『先週より作業所での実習』とあり合点が行くわけです。

ところが、別のケースもあります。私がいま主に『見て』いるR君(ダウン症で意思疎通は100%出来ず)の場合はここ1~2年かなり『おとなしく、静かに』になりました。彼はいま中一で、小学校入学以来7年間見ていますが、低学年の頃はチョロチョロ、キョロキョロと一瞬の休みも無く動き回り、後を追うのが苦勞でした。部屋の椅子は手当たり次第倒して回り、手にするものは何でも口に持って行きますので、床に落ちているゴミ、ホコリから全てのものを彼の周りから撤去です。特にプラスチック、金属類は禁物でした。

しかし、こんな彼もここ1~2年は、お気に入りの『ハンドマイク』と『風船』を遊び道具にして、午後の半分位はソファで過ごせる様になりました。一般に小学生の悪ガキでも高学年になるに従って落ち着きが出て来ますが、R君においてもその傾向が見られます。

勿論、我々の所以外、特に学校でも段々と『やるべきこと』或いは『やらされること』が多くなり、その分体力をより使うようになり、その分こっちに來てからは、『もう、ゆっくりしたいよう!』と言うことかも知れません。意思疎通が全く出来ない児なので勝手に推察するしかありません。

他には、ヨダレ ダラダラ、鼻水ズルズル、ブツブツ独り言の絶えない児、ワメキ声をあげながらホールの中をグルグル歩き回る児、はたまた重複障害で車椅子に座ったままの児とそれぞれ雑多です。初めて接する一般の方からすると、汚くて、ウルサクて、時には薄気味悪い場合があるやもしれません。

時々皆さんから、『良くやりますね』とか『随分続きますね』とかの声を頂きますが、一旦この児達と係わってみますと、こんなに『純粹』な『心』には、他では出会えません。この純粹さに引かれて続けられているだけです。

『人の為と書いて、偽りと読むんだな』(あいだ みつお)というのがありますが、全く他人の為ではなく、自分自身の為であることを自覚するようになりました。精神的にも、肉体的にも、この児達からエネルギーをもらっています。そしてこれが今の私の健康維持の源です。まだ皆さんとの『街歩き』にも参加できますし、周りから『アレ、あいつおかしいぞ!』とも言われて無いようです。

〈道〉こんな『自分の為』の活動ですが、一昨年逗子市の福祉法人から『感謝状』を頂きました。17年間の唯一のご褒美です。



紀州五代梅

創業天保五年
株式会社東農園

☎0120-12-5310
<http://www.godalume.co.jp>



GODAIAN
五代庵

〈直営店のご案内〉

銀座店
東京都中央区銀座8-2-10 誠和シルバークビル1F
TEL 03-3571-5858

八雲店
東京都目黒区八雲1-5-3 ベルザ都立大1F
TEL 03-3725-5199



半農半Xの農業ライフ (3)

昭和 46 年卒
森下 武子
(東京都新宿区在住)

2014 年、2016 年 4 月号に引き続き、半農半 X の農業ライフの第 3 回をお届けする。

2016 年は、4 月～6 月までは月 2 回、7 月～9 月までは月 3 回、10 月と 11 月は月 2 回、12 月は上旬に 1 回と八ヶ岳の家庭菜園に通い続けた。冬場の 12 月上旬から春 3 月までは畑作業と八ヶ岳通いはお休みである。今は玉ねぎ、ニンニク、ごぼう、キャベツ、白菜、ニンジン、ホウレンソウがカンレイシャ（寒冷紗）をかけて冬越えをしている。

去年の春から冬まで我ながら良く通い続けられたと思う。昨年 4 月からは息子が千葉県の有機農家の研修生（新規就農のための研修）になったため、現地のシルバー人材センターから人を雇って手伝ってもらった。ところが、その方も 7 月にはやめてしまい、7 月からは畑仲間の方に教えてもらいながら、レンタカーを運転して 1 人で畑に通って農作業を行った。30 代の初めに免許を取ってからこれまでペーパードライバーだったが、小淵沢の自動車教習場で 5 回レッスンを受けて、初めて八ヶ岳で運転する試練も受けた。

夏野菜はトマト、キュウリ、なす、ピーマン、とうもろこし、かぼちゃ、大根、さつまいも、里芋、じゃがいも、落花生、ズッキーニ、葉物（スピルナ、スイスチャード、ほんれんそうなど）を栽培した。家庭菜園なので多品種少量栽培で、すべて無農薬、有機肥料である。いくつか失敗作はあったが、あまり手間暇をかけられなかった割には良く育った。トマトは昔のトマトの濃い、お日様の香りのする味で美味しい。大根も立派に育った。ただ、とうもろこしは新芽を少し鹿に食べられたばかりか、収穫の直前にタヌキにすべて食べられてしまった。じゃがいもは猪に荒らされ、殆ど残らなかった。この連絡を受けて、急遽八ヶ岳にかけつけ、畑を金網で囲む作業も行った。

秋野菜は大根、カブ、二十日大根、春菊、高菜、からし菜、ルッコラ、ホウレンソウ、ハクサイ、キャベツ、レタス、セロリ、ブロッコリーを栽培した。大半が在来種である。キャベツ、レタス、セロリ、ブロッコリーはうまく育たなかったが、葉物は良く育った。白菜の 1 株は非常に大きくなり、12 月上旬に収穫して自宅の冷蔵庫に入れたら 1 月中旬まで食べることが出来た。

多く取れると収穫後の作業が大変になる。八ヶ岳の山小屋で野菜を洗い、新聞紙で包んで段ボール箱に入れて、東京の自宅や妹や娘、友人宅に送る。八ヶ岳の山小屋での生活は農作業、野菜の洗い・箱詰め・送る作業、山小屋の掃除と忙しい。東京の自宅に送った野菜も、無駄にしないように生で食べたり、煮たり、漬物にしたりと工夫がいる。料理の時間も長くなった。

今年の 4 月からは冬越えをしている野菜の収穫と畑の整地をする。5 月には夏野菜の種まき、植え付けを行い、また八ヶ岳通いが始まる。さらに、今年は息子も研修を終え 4 月から千葉県で新規就農（有機野菜栽培）の予定のため、農業関連の作業が新たに追加する。農家を借りるのでその掃除や家事などの手伝いも含めて千葉県に通う頻度も増えるだろう。息子は、個人消費者への配達と宅配、レストランなどの業務需要、直売所やスーパーの有機野菜コーナーへの出荷を計画しているため、その販売ルートの開拓も支援したい。個人消費者への宅配の勧誘や野菜のネット販売の試み、レストランなどの業務需要開拓など、やるべきことは多々ある。八ヶ岳の家庭菜園を継続するとともに、今年は千葉での農業ビジネスにもチャレンジしていくことになるうか。



がってん コンビのつぶやき

昭和 42 年卒 杉野 雅子 (練馬区在住)

昭和 42 年卒 神田 典子 (府中市在住)

私たち二人は、名前の頭をくっつけて同級生仲間から「がってん (雅・典) コンビ」と呼ばれている。

まず、雅のつぶやきから・・・

最近習い始めたマージャン教室で、私が「ボケ防止」になると思い始めたと言ったら、「脳トレ」ですよコーチのお言葉。

シニア年代でマージャンを始める人の話を聞くことが増たり、脳幹梗塞を患った若い女性が不自由な手のトレーニングにと、マージャンを習い始めたという話を聞いていたので、知人のご婦人が4年前からマージャン教室でゲームを楽しむ毎日を送っているということを知り、思わず「私もやりたい!」と手を挙げてしまった。

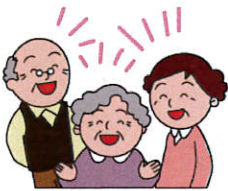


そんなわけで、知人の通う教室で習い始めたものの、覚える言葉や約束事がたくさんあり、1時間のトレーニングが済んだあとは、頭がパニくり、少々放心状態に陥る。が、心地良い疲れでもある。次回の予約をしての帰り道は、心なしか足取りも軽やかな気がする!?

今どきのマージャンというのは、卓上でマージャン牌 (パイ) をジャラジャラと混ぜたり、親を決めるサイコロを振ったりはせず、卓上が全て電動で、サイコロもボタン操作、パイもボタン一つで卓の下から上がってきて目の前に並ぶのには驚き! これは私が知らなかっただけ?

誰もが初めてパイに触れた日から楽しめると聞いているが、今のところ揃えるパイを覚え、捨てるパイはどれからがいいのかといった基礎ルールを覚えるのに必死で、回数を重ねる中で、点数の数え方や35種類あるマージャンの役を覚えていき、「マージャンは4人で遊ぶゲーム!」と心から楽しい気持ちで言えるようになりたい。そうなるには時間も要することであろう。

次は、典のつぶやきを・・・



つい最近、長年住み慣れた国分寺市から府中市に引っ越しして、少々疲れぎみである。

結婚がきっかけで東京に住むこととなり、最初に落ち着いた所が小金井市。数年後国分寺市に移り住み、子育てに専念。その2人の息子たちも社会人となり、家を出て行った。1人は結婚して3女の父になり、もう1人は仕事と結婚(?) したのか毎夜遅くまで働いている。

10年ほど前、国分寺駅近くにNPO法人「さわやかプラザ 青空」ができ、友達に誘われて立ち上げ当初からお手伝いをしている。

市の委託による「老健施設」として立ち上げられた「青空」には、囲碁やマージャンはじめ様々なサークルがあり、また他の運営ではあるがデイサービスも入っていて、60歳以上の人たちが利用できる場である。私は、これらの施設を利用する人たちがお茶を飲んだり食事をしたりできる場である喫茶部で、週に一度のお手伝いをしている。私たちの団塊世代が65歳の仲間入りをしてから、4人に1人が65歳以上のシニアとなり、ここの施設の利用者も年々増加している。

喫茶部での労働は週に一度であるが、運営のためにメニュー開発したり、赤字を出さないよう仕入れに頭を使ったりと、することが多々あり、これらに携わることで私の健康が維持されているのではと思いながら働いている。



南部高校軟式野球部出身 九谷青孝投手の活躍



第42回社会人野球日本選手権決勝 (日本通運・ヤマハ戦) が昨年11月8日、京セラドーム大阪で行われました。8回表、ヤマハ先発の左スリークォーターの池田投手に替わって登板した九谷投手は左サイドスローの変速ピッチャー。この回は無難に抑さえるが9回に1点を失い、無死満塁一打逆転の大ピンチになるが、後続を内野ゴロ、三振、外野フライに打ち取ってヤマハを初優勝に導いた。

TV観戦をしていた私は、このときは南高の卒業生と

は知らなかった。翌日の紀伊民報をみて驚いた!

【九谷青孝 (はるたか) 投手プロフィール】

1989年12月12日生、身長169cm、体重60kg、左投げ左打ち。小学2年から東本庄野球クラブ⇒上南部中学校⇒南部高校⇒東京農業大学⇒ヤマハ

高校時代は軟式野球部に所属し、近畿大会で3度優勝。ヤマハでは2年目から出始め、現在は抑えの投手として活躍、副主将も務めている。コントロールが持ち味で、スライダーとチェンジアップが決め球。

インターネットで九谷投手の動画をみることができます。

検索: ヤマハ・九谷青孝投手 - YouTube

(木村記)

秋のウォーキング

生田緑地 (川崎市)

たっぷり自然とアートあり、サイエンスあり、
日本民家園、かわさき宙（そら）と緑の科学館、岡本太郎美術館
藤子・F・不二雄ミュージアム、伝統工芸館

昭和 36 年卒
佐藤 宮子
(東京都調布市在住)

10月9日(土) 自宅の調布市仙川は雨、朝8時ごろは雨が降ったり止んだり、半ば今日は延期かなと思いつつリーダーの山崎さんにTELしたところ「今日は決行です」とのことで急いで支度をして集合場所の向ヶ丘遊園駅に10時過ぎ到着。18名が集合。のちお天気も落ち着いてきました。

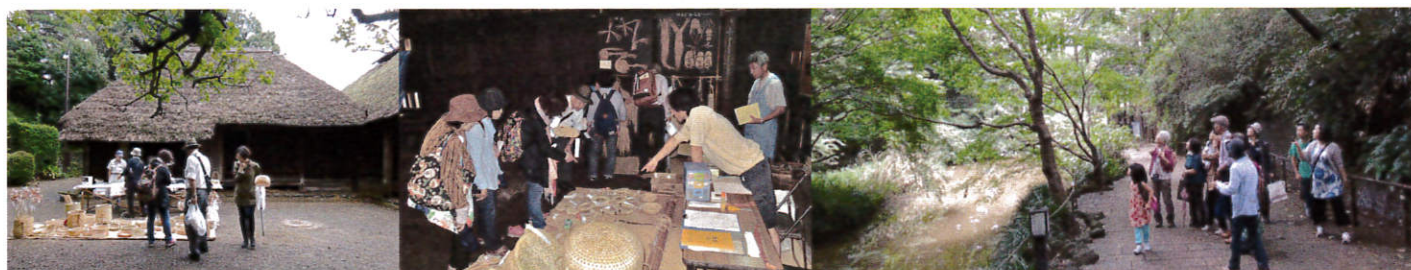
駅からバスで20分ほどで都心とは掛け離れた雄大な森と林の公園に到着。小高い丘から見下ろした場所で、最初に目に飛び込んできたのは岡本太郎の彫刻「母の塔」でした。こんな身近な場で偉大な人の芸術を見られたことに感激。

次は日本民家園の国指定の重要文化財を見学。昭和初期のお百姓さん達の生活様式、昔の幼いころを思い出した時間でした。その後、古民家の庭園をお借りしてお弁当を頂きました。

この広い公園の中にプラネタリウムの施設があり、秋の星空を楽しませてくれました。

最後に岡本太郎美術館に入り破天荒な芸術を堪能。古民家集落では竹細工を作る作者と会話をしたりして、可愛いわらじを購入してきました。

雨も遠のき再度きて見たいとの思いが残ったハイキングコースでした。



日本民家園での買い物

緑地内は水と緑がいっぱい！



母の塔

かわさき宙（そら）と緑の科学館前で



世界最高水準のプラネタリウム
「メガIIIフュージョン」



岡本太郎美術館



日本民家園

私の仕事

昭和 52 年卒 中西 雅洋 (神奈川県中郡二宮町在住)



南高学友会東京支部総会では、先輩の方々のお元気な様子に触れさせていただき、楽しく過ごさせていただきました。その場では、若手(?)ということ、この場をもっと元気にしよう、新しい風を吹かせろと、諸先輩からお声掛けいただきました。私の自己紹介と近況をお伝えしたいと思います。

私は、(株)野村総合研究所で、システムコンサルティングを担当しています。ちょっとわかりにくい分野かもしれませんが、ご説明します。

システムコンサルティングは、企業の経営基盤としての「情報」の活用、競争優位の獲得に向けた情報技術(IT、システム)の導入などを支援する業務です。さまざまな企業が、競争に勝ちぬくためや、社内の運営や労働環境の改善など、いろいろな所で、情報技術を活用しています。システムコンサルタントは、先進の技術動向を把握し、情報技術の適用の可能性や、システムに関する課題に対して、解決の方向性を示唆したり、実行支援として、運営を支援したりするのが役目です。

情報技術の進展はめざましく、スマートデバイスの進化やクラウド・コンピューティングの普及はもちろんのこと、それらを活用した新たな IT サービスも次々に生まれており、IT は今まで以上に企業活動に大きな影響を与えています。

みなさんも、AI(人工知能)、IoT(Internet of things:モノのインターネット)、VR/AR(仮想現実/拡張現実)などの言葉とともに、このような表現を目にしたことがあるのではないかと思います。AIは、第3次ブームといわれ、特別な知識・スキルが求められない業務のみならず、データ分析や秩序的・体系的操作を求められる業務にも適用される可能性が高まってくるといわれています。IoTは、世の中に存在する様々な物体(モノ)に通信機能を持たせ、インターネットに接続し相互に通信することにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などが行える技術で、すでに様々な領域で活用されはじめています。VR/ARは、まずは、ゲームの世界で注目されています(プレステのVR、ポケモンGOのAR)が、実務への応用も進んでいきます。新しいサービス、製品が紹介されるときに、その裏側では、いろいろな技術が適用され、皆さんの生活のなかにも、気がつかないうちに、使われ始めています。こういう技術がベースになって、今までなかった便利さが手に入れます。反面、それぞれの技術が抱える課題も多く、不安を感じられることもあると思います。技術は万能ではなく、必ず限界があり、問題をはらんでいます。

ただ、わからないから不安だ、難しい、わからなくてもいいというのではなく、少し身を乗りだして近づいてみてはいかがでしょうか。わかったうえで、どうつき合うのか、使ってみると便利だとか、これは使わないと言う風に、積極的に関与して、自分なりに見極めてほしいと思います。技術の進歩のなかにあっても、いつまでも、穏やかで豊かなくらしをしたいという思いは、変わりませんが、世の中の進歩をうまく自分のものにして、今まで以上に豊かに生きていきたいと思っています。



梅をつつむ費
幸つみ
『黄金漬』をやわらかな道東産の樟前昆布で
つつんだまろやかで旨味豊かな梅干しです。



元祖はちみつ梅
こがねづけ
黄金漬
選りすぐりの紀州南高梅とはちみつが
醸し出す、まろやかで上品な梅干しです。

梅
いちばん

通信販売カタログ・商品のお問合せ、お求めは
フリーダイヤル 0120-197-832 FAX フリーダイヤル 0120-319-515
受付時間 平日/午前8時~午後6時 土曜/午前8時~午後5時
FAXおよびホームページでは24時間、受け付けております。
株式会社梅一番井口 〒645-0027 和歌山県日高郡みなべ町西本庄1224
<http://www.ume1.com/>



全国梅生産者女性サミット

2017 in みなべ

昭和51年卒 松川 薫（和歌山県みなべ町在住）



2月20日、21日に和歌山県みなべ町の紀州南部ロイヤルホテルで、「全国梅生産者女性サミット 2017 in みなべ」が開催されました。このサミットは、全国の女性梅生産者が一堂に会し、それぞれが抱える課題や問題点を共有するとともに、各地域の魅力ある取り組み状況について情報交換を行い、女性の感性を反映させた新たな地域振興や商品開発等による消費拡大を促進し、梅産地の活性化を図ることを目的として開催されたものです。

この背景には、近年、家庭での和食離れが進み、全国の梅干し消費量も減少傾向にあるなか、国内の梅生産地ではそれぞれの地域でその特色を活かした生産振興に取り組まれ、また、機能性食品としても様々な機関で研究が進められ、健康や美容面での可能性についても関心が寄せられていることがあります。そうした各地域での活動や研究の情報の共有化が梅産地の活性化に大きく貢献する

と考えられたわけです。

昨年3月には埼玉県越生町で開催され、私達もこのサミットに参加しましたが、その時、次回はみなべ町へとバトンを頂き、それ以降、町内の女性でサミット実行委員会を結成して、何度も集まり企画を詰めてきました。サミット実行委員は15名ですが、3年前からみなべ町内で頑張っているグループに声掛けをして、女性のネットワークを立ち上げていました。JA女性部にも声掛けをして一緒に実行委員になってもらいました。

昨今の梅の低迷から抜け出せるように、皆が元気になれる様なサミットが出来ないだろうか？町内には沢山の加工業者があり、これまで梅干しを作っても加工業者に購入して貰えるシステムが整っているのですが、自分が作った梅はどの様な形で販売されているのだろうか？また、梅をどれだけ愛して作っているのか？梅の未来について等、参加型情報交流を重点に企画を考えました。

参加者数は20テーブルで合計207人で、県外から71名参加して頂きました。沢山の方々と皆が構えることなく話し合えるように、初日のシンポジウムの座席も町内・県内、県外の方々と一緒に座れるように指定させて頂きました。

シンポジウムでは、開会式に引き続き、チョーヤ梅酒株式会社の金銅専務に「中小企業のグローバル化」の演題で、カテゴリーからブランド戦略への内容で講演頂き、酒税法やブランド力について話して頂きました。

講演後の参加者交流会では、株式会社バンブーカットさんに梅茶ショップを開いて頂き、皆でしそ漬け梅のお茶漬けを食べました。しそ漬け梅の梅干し茶漬けは、熊野米、京都の専門店のお茶や塩昆布、のりを使い、料理家が監修してレシピを作り、商品化されたメニューです。梅干し茶漬けの配膳作業には、農業振興協議会の男性や梅郷クラブの青年達にご協力頂き、揃いの制服で歩き方や配膳の動きも楽しい演出がありました。

梅茶漬けの後は、バンブーカットがコーディネーターとなり、テーブルごとに梅干しの魅力について話し合いました。あると安心、ヘルシー、腐らない、味付け万能、千両役者、脇役でありながら主役以上の力を持つ、万人に良く愛される日本で唯一のSoul food（ソウルフード）などが梅干しの魅力として挙げられました。

夜の交流会には144人が参加し、夕食には、梅入りだしの豚しゃぶなど梅を使ったメニューを開催ホテルのシェフに多く考案していただきました。また、夕食会の初めには、みなべUMEガールズコレクション（梅農家）のメンバーが梅の手入れや収穫作業時の服装のファッションショーも実施して、好評でした。

又展示ブースには、「みなべ田辺の梅システム」世界農業遺産、JA紀州、チョーヤ梅酒（株）、地元女性グループ加工品（みなべ川梅染め愛好会・AneClaf・仲良しグループ・清川梅食べる会・はびねす・みなべ生活研究グループ）、梅加工商品、紀州みなべ梅酒の会に加えて、農業女子PJ×参画企業《（株）丸山製作所・（株）ワコール・（株）モンベル・（株）ダイハツ工業・（株）東和コーポレーション等》の多くの展示品が並びました。

翌日の現地研修会では73人が参加して、奥みなべ梅林や梅振興館、県うめ研究所を視察し、実行委員や梅農家の女性で作った農家ランチを堪能しました。地元女性グループの加工品は奥みなべ梅林で販売させて頂きました。

今回のサミットは、皆で作りに上げたサミットだと感じました。主催者とお越し頂いた皆様とが一緒になって楽しい時間を過ごせ、みなべ町を肌で感じて頂けたと思います。私達も、沢山の元気を頂き、これからの梅の未来に希望が持てた2日間でした。何より、町内の女性の方々が同じ目的に向かって進められた事が大変良かったと思いました。この経験を生かし、これからも微力ながら、皆で頑張っていきたいと思います。



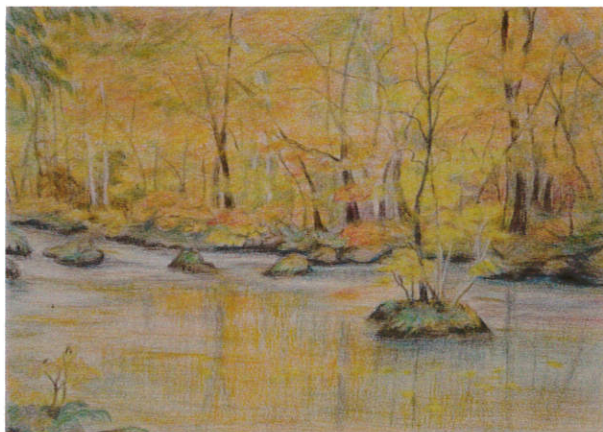
ミニギャラリー



レッサーパンダの子供



娘からのプレゼント



奥入瀬の秋



夏野菜



初夏

小西 早苗さんのプロフィール

小西 早苗さん（旧姓濱田、昭和 34 年卒）
は 2005 年から朝日カルチャーセンターで
国画会会員の松山俊彦先生（滋賀県出身）
に色鉛筆画を学ばれています。

前回 11 号会報に続き、今回は 5 点の
出品をいただきました。

原田・天野両名が受章

平成28年春の叙勲 南部高校出身の原田・天野両名が受章されました。

原田 武俊氏（昭和35年卒）みなべ町山内 在住

瑞宝小綬章。受章理由：教育功労 昭和39年立命館大学を卒業、同年7月に南部高校に教諭として赴任以来、37年間にわたり、県教育の発展に尽力、26歳の時「新福寺」住職を継ぎ「二足のわらじ」で活動の幅を広げた。担当の理科教諭として、教科、部活動などの学校教育や、農業、林業などの産業教育の発展にも貢献。23年間南部高校で務めたあと、熊野、串本、田辺高校では教頭として、最後の8年間は南紀、田辺、南部高校の校長として、学校運営の要として活躍した。南部高校学友会本部会長も歴任された。

天野 正一氏（昭和37年卒）田辺市上芳養 在住

旭日双光章。受章理由：地方自治功労 昭和37年南部高校卒業（園芸科）、同年より農業従事、44年紀南農協職員、48年田辺市職員、平成9年農林振興課長、10年8月田辺市議会議員、14年8月総務企画常任委員長 市町村合併特別委員、19年6月副議長、25年2月まで市議会議員として4期15年つとめた。特に合併委員として、竜神村、中辺路町、大塔村、本宮町を旧田辺市と合併することに、尽力された。南部高校学友会本部役員。

事務局から

*敬称略

賛助会員新規入会

今回、下記の方々が入会してくださいました。嬉しいですね。

横田 耕治 山下 豊茂 森本 茂 岩城 初男
岩城 あつ子 犬本 亮次 川島 ケイジ

ご寄付ありがとうございました。下記の方々からご寄付をいただきました。

心よりお礼申し上げます。会のために有効に運用させていただきます。

大江 康弘 大江 淳介 岡村 茂子 多々良 郁子

編集後記

今回から編集を担当することになりました。今までは東京支部総会、懇親会に参加するだけの会員でした。それが平成27年4月に支部長の山崎さんに誘われ、軽い気持ちで支部役員となったのですが、人手不足で東京支部だよりを担当することになりました。会報の発行は全くの素人で、何をどうやればいいのかさっぱりわからず、大先輩の役員の皆様にアドバイスをいただきながら進めました。掲載する原稿を快く引き受けて下さった会員の皆様のおかげで予定通り発行できました。編集スタッフ一同喜んでおります。感謝申し上げます。

東京支部も会員の高齢化が進んでおり、なかなか若返りが難しい状況にありますが、何とか若い人にも仲間になってほしいと思っています。お知り合いの卒業生へのお声がけをよろしくお願いします。

（事務局 楠本）

編集スタッフ

木村 允彦（TEL・FAX 048-786-3514） 杉野 雅子 神田 典子
三本 陽子 森下 武子 楠本 邦一